事務事業チェックシート

事務事業No　473　　事業名　**骨髄バンク登録事業**

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政　策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施　策	4	保健医療対策の推進
取組方針	1	難病患者への相談支援体制の充実

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	衛生費		
	項	保健衛生費		
	目	保健所費		
	大事業	保健所事業		
	中事業	骨髄バンク登録事業		

事業種別	継続	関連個別計画	地域保健医療計画		
事業年度	無し　～　無し	担当課・担当課長・Tel	保健対策課	豊田　忠彦	488-5115
事業実施の根拠法令	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関	関連課			

1　事業内容

	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)	全体事業概要
事業目的	骨髄移植等を必要としている患者が、移植をすみやかに受けられる体制を整えるため、ドナー登録者の確保を図る。	骨髄バンクとは（公）日本骨髄バンクが主体となり、骨髄移植等の機会を必要としている白血病等の患者と提供するドナーの橋渡しを担う組織活動でる。骨髄移植には、兄弟姉妹間以外の関係では、移植に必要な白血球の型の適合の確率は低いため、骨髄移植を受けられない患者も少なくない。そのため骨髄バンクドナー登録の啓発を行い、登録者の確保を図る。 献血併行型骨髄バンクドナー登録会にて、ドナーバンクへの説明やHLA型検査を行い（２mlの採血）、ドナー登録を実施する。

事業内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
	対象者に対して、骨髄バンク事業の普及啓発を図るとともに、ドナー提供者の拡大を図るため、献血併行型骨髄バンクドナー登録会を行った。	対象者に対して、骨髄バンク事業の普及啓発を図るとともに、ドナー提供者の拡大を図るため、献血併行型骨髄バンクドナー登録会を行った。	対象者に対して、骨髄バンク事業の普及啓発を図るとともに、ドナー提供者の拡大を図るため、献血併行型及び単独での骨髄バンクドナー登録会を行った。	骨髄バンクの普及啓発 献血併行型骨髄バンクドナー登録会の実施	骨髄バンクの普及啓発 献血併行型骨髄バンクドナー登録会の実施

2　事業コスト

事業費等（千円）		平成28年度 当初予算	平成28年度 決算	平成29年度 当初予算	平成29年度 決算	平成30年度 当初予算	平成30年度 決算	平成31年度 当初予算	平成31年度 決算	令和02年度 計画	令和02年度 決算
事業費		29	29	29	28	29	29	13	0	13	0
伸び率（%）		0%	0%	0%	△3.4%	0%	3.6%	△55.2%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	2,305	2,146	2,154	1,117	1,279	1,998	1,359	0	1,359	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	2,305	2,146	2,154	1,117	1,279	1,998	1,359	0	1,359	0
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市　債		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源（税等）		29	29	29	28	29	29	13	0	13	0
所要人数（人）	正規職員	0.29	0.27	0.27	0.14	0.16	0.25	0.17	0.00	0.17	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳		消耗品費　29千円									

3　目標及び実績

	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
活動指標	献血併行型骨髄バンクドナー登録会の回数	回	目標値	5	5	5	5	5
			実績値	4	4	6		
			達成度(%)	80%	80%	0%	0%	%
			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					
成果指標	ドナー登録者数	人	目標値	25	25	25	25	
			実績値	21	14	30		
			達成度(%)	84%	56%	0%	0%	%
			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4　事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している（90%以上）	○	おおむね達成（70～90%未満）		達成していない（70%未満）
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない		見直しが必要

5　今後の方向性（担当課評価）

事業内容の方向性					
	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
		コスト投入の方向性			

担当課評価の根拠	ドナーの年間登録者が減少傾向にあり、年齢到達でドナーを引退する方が今後激増する可能性が高い。若年層のドナー確保が必要である。また、ドナーに選ばれたときに提供しやすい環境づくりを検討する必要がある。
見直し・改善内容	今後、若年層のドナー確保のため、学校等への骨髄バンク普及啓発対策の検討を進める。